

ベッコウバエ



澄川森林の作業道を歩いていて、いつものタヌキの溜糞にハチかと思いがう虫が群がっていました。一緒にいた湯澤さんが「ベンジョバチだ」といいました。漢字表記してみますと便所蜂となります。正しい和名はベッコウバエ(鼈甲蠅)といえます。ハチの仲間ではなくハエなのです。体長 12mm 前後。おなじみのイエバエは 9mm 前後ですからハエにしては

大柄です。ハエの仲間は人糞や獣糞で命をつないでいるものも多く、この虫も幼虫も成虫も大型脊椎動物の糞を主食として、樹液などを副食としているのです。

澄川の森では作業道の上 4 ヶ所もタヌキの溜糞があります。しかしこの虫がむらがっているのを見るのはこの季節すなわち秋も深まる 10 月半ばに限られるみたいです。図鑑には 9~10 月にあらわれるとされています。交尾をしているものもいたので集団見合いの場所でもあるようでした。形と色がちょっと見にはハチを思わせるのは擬態でしょうかね。分布は全国区です。しかし最近の子供達はこの虫を見る機会はほとんど無くなったと思います。われわれ森ボラ仲間にとっては便所が水洗化される以前の懐かしい景色であります。

タヌキは習性として家族共用で同じ場所に排泄します。それが 4 ヶ所もあるということは、澄川の森に少なくとも 4 家族のタヌキが棲息していると思ってよいのです。それを支える食べ物があるということで、澄川の森の豊さを証明しているのです。お蔭様でアライグマが追い出されたような気がします。キツネにしても集団で行動するタヌキには 1 対 1 では勝てると思われませんが、多勢に無勢で敵わないものと思われれます。アライグマやキタキツネに較べてあまり人に対して悪さをしないのでタヌキが増えることは結構なことだと思っています。



↑溜糞の近影。真ん中あたりにベッコウバエがとまっています。



←秋も深まり歩道はすっかり落ち葉に覆われました。画面中央やや左下あたりに溜糞があります。